

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0196400063), 法人名 (有限会社 横木介護サービス), 事業所名 (グループホーム あふんの里), 所在地 (増毛郡増毛町阿分224番地の9), 自己評価作成日 (平成27年9月18日), 評価結果市町村受理日 (平成27年11月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあふんの里は、雄大な暑寒別岳や日本海に囲まれ、自然豊かな環境に位置している。あふんの里がある阿分地区は民家が点在し、その周辺には、畑が広がっています。地域の顔なじみの方々も多く、代表者や職員も居住し、いつでも支援できる体制になっています。入居者の皆様は、ウッドデッキに出ての外気浴を通して、畑の野菜の成長を楽しんだり、近くを走るJRに手を振るなど、楽しく生活されています。畑で取れた野菜は、入居者様より知恵を頂き、職員と一緒に調理をしています。また、居室には、洗面所やトイレが設置してあり、入居者様一人一人のプライバシーの確保や、排泄の支援が出来る環境作りを行っています。開設4年目になりますが、退去者は1名と少なく、入居者様同士も家族のように接し、いたわり合って日々暮らしています。皆さんが自分らしく生き生きと安心して暮らしていけるように、職員全員が共通の思いを持ち日々介護させて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0196400063-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年10月14日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地元の高齢者が住み慣れた地域で、自然の四季の移り変わりを感じながら、のんびりゆったりと暮らせるホームとして4年前に設置された。運営母体は、訪問介護事業や老人ホームなど、地域に密着した事業を展開している。リビングの大きな窓からは明るい日差しがたっぷりと入り、利用者が自宅にいるようにくつろいでいる。職員は、重度化し意思疎通も困難になってきた利用者が多い中、しぐさや表情から思いを汲み取り、やさしく丁寧に接している。運営推進会議は、町の職員、包括センター職員、自治会長、民生委員、家族代表などの参加を得、2か月毎に開催し、入居者の状況、行事、事故報告等を行い、意見・要望を受け、サービスの向上に活かしている。家族は、親身な介護に安心している。毎年本部で主催する盆踊りには、利用者、近隣の住民、職員の家族等が集い、屋台などもあり皆の楽しみになっている。地域に密着し、利用者の思いを大切に、家庭的で温かな事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえ、職員全員が日々実践の取り組みをしています。職員が現況を毎日確認でき、来訪者にも見て頂けるよう玄関に提示してあります。	基本理念と4つの目標を立て、利用者本位の介護を実践している。職員はより良い介護を目指し、玄関、事務室に理念を掲げ、日々確認し、研鑽している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小学校の閉校や近所の方々の高齢化も進み、極端に交流の場が減少しているが、本部で行われる盆踊り大会は今年も開催。近所の方々と、短い時間ではあったが、交流している。	重度の利用者が多い中、本部主催の盆踊り大会に参加し、地域の方々と集い、屋台なども楽しんでいる。また近隣からは野菜などの差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症についての説明や、入居者一人一人にどのような支援を行っているか、お話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは、自治会の会長、民生委員役員、町の担当職員、入居者ご家族様と幅広い方々に参加して頂いている。行事や現状の活動、事故報告やヒヤリハットなどの報告をし、皆様より貴重なアドバイスを頂いている。	2か月に一度、町職員、包括センター職員、自治会長、民生委員、家族代表等が参加し、事業所の状況報告を行い、意見要望を受け、運営に反映している。会議報告書を作成し、「あふんの里だより」と一緒に家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーの一員として、毎回参加して頂き、貴重なアドバイスを頂いている。加えて町が行っている研修への参加や解らないことは担当職員へ相談するなど密に連絡を取らせて頂いている。	町の福祉厚生課とは日常的に連携を取り、協力関係を築いている。町職員は運営推進会議に出席し、適切なアドバイスを頂いている。職員は町開催の研修にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な社内研修の1つに身体拘束の内容を入れ、職員にDVDを見てもらい、身体拘束について話し合いの場を設けた。現在1名、身体拘束をしている入居者様が存在するが、日々取り外す取り組みを行っている。	身体拘束をしないケアについて定期的に職員研修などで確認している。安全のために拘束をしている利用者に対して、職員で話し合い、解除する努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の気持ちになり、日々支援させて頂いている。職員間でも、入居者様の尊厳を無視した介護や乱暴な言葉使いが見られた場合は、注意を出来る関係作りを築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、理解を深めたいと思っはいるが、近隣での研修の開催がないため、学ぶ機会が持てていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、入居者様及びご家族様に対して、分かりやすく説明をさせて頂き、質問や疑問にも細やかな対応を心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口電話番号を記載、当施設玄関には意見箱設置し、ご家族の貴重なご意見を頂きやすく工夫している。ご意見を頂いた場合は、速やかに対応するように努めている。	施設を訪問する家族の会話の中から意見・要望を聞き、問題には早急に対応している。また、家族に発送する「あふんの里たより」に記載して質問や感想などを頂き、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや月1回の職員会議を行う中で意見交換を行い、できる限り仕事がしやすい環境を整えるように努めると共に業務上のトラブルがあった時は臨時的な会議を開いている。	毎朝のミーティングでは必要事項の申し送りを行い、意見交換している。また、推進会議の議事録等も必ず職員へ回覧し情報を共有している。施設・設備等の要望等も必要性が認められるものは即時対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	27年6月より賃金改定を行い、社員の業務遂行力、勤務成績、勤務態度、能力向上に対する姿勢等を、総合的な能力として整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の計画にそって一人一人が研修を受ける機会をつくっている。又月1回の会議の中で発表したりしながら、他の職員と共通のものとしている。職員一人一人のがんばりを評価し、伝えていく努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設を見学したり、当グループホームへの見学を受け入れ、意見交換、交流を深める努力をしている。又、各研修での交流も大事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前より、ご家族様を通し入居者様の意見を確認し要望等をしっかりと受け止め、ご利用者様主体の介護を提供出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前よりキーパーソンとなる方を中心に話し合いの場を設け、ご家族様の思いや施設側へ期待することをしっかりと聞き対応している。その際、苦情などはいつでも直接電話などで受けることを付け加えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時の基本情報や入居者様・ご家族様の方から聞いた情報を元にその時に必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご家族の代わりとなり、一緒に生活を楽しむ者として、入居者様に関わっている。お客様扱いではなく、調理や作業と一緒にいき、日々の生活を豊かに送れるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力して頂き、入居者様を共に支えていけるようにしている。遠方に暮らしている家族へは、月に何度か電話をし、本人と会話をして頂き、家族との信頼関係が途切れないようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者の方が入りやすい声掛けや雰囲気作りを心掛けている。電話の対応もっており、双方が困っているときには、電話を変わり間に入り、会話出来るような支援を行っている。	友人の訪問もあり、通院の帰りに馴染みの店での買い物をするなど、関係継続の支援をしている。本部で行う盆踊りでは、古くからの馴染みの人との交流がある。知人、家族等の電話では、職員の介助でスムーズに会話ができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず仲間意識や相手を思いやる気持ちを大切に、お互いに補い合える生活が出来るように支援していく。(誕生会の役割や、居室の訪問等)	入居者一人一人の個性をしっかりと把握し、孤立せず仲間意識や相手を思いやる気持ちを大切に、お互いに補い合える生活が出来るように支援していく。(誕生会の役割や、居室の訪問等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、何度か連絡を取らせて頂いたが、家族の方からは連絡はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やちょっとした表情や態度から入居者様の思いを知り、職員で話し合い、出来るだけ入居者様の意思に沿った暮らしが継続できるように心がけている。意思を伝える事が困難な入居者様に対しては、ご家族と話し合い、本人本位に検討している。	重度化が進み、意向の把握が困難な利用者もいるが、そばにいて思いをくみ取り感情の流れを知って、その人らしい暮らしが出来るよう寄り添っている。家族からも希望を伺っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用申し込み時に、入居者様やご家族様よりライフヒストリーをしっかりと聞き取り、職員に周知し、日々の暮らしのベースにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントに日々の状態を記入し、入居者様の状態を総合的に把握している。状態に変化が生じた際は、朝のミーティングや毎月の職員会議の議題にあげ、支援内容の検討を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの情報と職員からの入居者様情報を集約し、入居者様の意向とご家族の思いを考慮しながら、その人らしさを幅を広げた介護計画書に取り組んでいる。	職員一人一人が把握している情報を全体で話し合い、家族、医師とも相談し、計画作成担当者が、利用者にとってより良いケア計画を作成している。計画は3ヶ月ごとの見直しを基本としているが、変化時はその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子(バイタル・排泄・睡眠・食事等)やケアの内容を毎日記録している。その中で気づいた事などを職員間で共有し、必要に応じたカンファレンスを行い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	座位保持が不可能になった方への、リクライニング車椅子の提供や、臨時的病院受診時(車椅子対応の人)車両を速やかに準備している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方が、グループの畑の管理を一緒にして下さっている状況。草取りや作物のできを一緒に喜んで、楽しみながら行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医が継続され、職人が同行して受診支援を行っている。又、重度化が進み、かかりつけ医の継続が困難な場合は、家族に連絡し、今後の希望を聞き、対応させて頂いている。	利用者のかかりつけ医に職員が同行、受診している。また、訪問診療を受けている利用者もいる。常に医療機関と連携を取り、緊急時には電話対応の体制をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師は配置されていないが、1週間に2回パートの看護師が配置されている。それに加えて緊急時の対応は、24時間オンコール体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時による心理ダメージを最小限にする為、入院中は週に1~2回以上は面会し、病院看護師と情報交換を行っている。退院については、受け入れ体制が整い次第、速やかに受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期における同意書を交わしている。入居者様の状況の変化時などに、ご家族・主治医と話し合い、入居者様本位になるように取り組んでいる。	入所時に看取りについての指針を説明し同意書をお渡ししているが、随時見直しを行っている。本人、家族の意向を聞き、医療機関と連携し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回介護員が救急基礎講習を受けて講師となり、内部講習会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在年2回、避難訓練を行っているが、1回が火災による避難訓練、もう1回が自然災害を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議でも、避難訓練後実施状況の報告をし、協力をお願いしている。	年2回避難訓練を行い、消防署からは施設の点検や避難訓練の方法についてアドバイスを受けている。備蓄品の準備もあり、ポータブルストーブ等、冬季停電時の用意もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳が遠い人には耳元ではなし、耳がいい人には小さな声で話し、職員と利用者ではなく「あなた」と「私」の関係性が築けるよう人格を尊重している。	本人の気持ちに寄り添い、その時々で心地良い呼び方で呼んでいる。個人の記録などは事務室の書庫に保管し適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えない方がほとんどの中で声なき訴えを感じられるよう、一人一人の言動を観察し、選択出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在、自訴がない方が6名居る為、希望は聞き取れない状況。その中で本人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時選択出来る人には、衣服を選んでもらっている。寝たきりの方は、朝だけでなく適時タオルで洗面している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛りつけを一緒に行う事で、食事への楽しみが持てるよう支援している。誕生日には、本人が何を食べたいかを確認しメニューに反映している。	季節に応じて1週間ごとにメニューを決め、利用者、職員と一緒に楽しみながら和やかに食事をしている。誕生日には本人の希望を取り入れている。重度化が進み、外食はなかなかできない状況にある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせて、普通食・お粥・キザミ食・ミキサー食を提供している。水分に関しては、1日1200mlを目標としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。入れ歯の取り外し等、ご自分で出来る事は行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄パターンや表情や仕草等のサインを読み取りながら、居室のトイレでの排泄を重視している。	居室にトイレが設置されており、プライバシーは保たれている。排泄の記録や、一人ひとりのしぐさから声掛けし、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しやすい方には、牛乳やヨーグルトなど便通に良いとされている食物の提供や歩行等の運動による、自然排便を促している。それでも便秘が改善されない際は、医師と相談しながら、下剤を使用し、出来るだけ身体に負担のかからない対応を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の生活のリズムを考慮し、時間帯などを設定している。また、体調不良などで入浴出来ない場合は、日を改めて入浴している。	週2回の入浴を基本とし、拒否の方には翌日など日を変えて声掛けしている。また、入浴を楽しめるよう入浴剤を使用するなど工夫し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のリズムや習慣、状況に応じて支援している。また、眠れない時には安心する声かけや話を聞いたり、時には添い寝をしたり、眠れない時には職員と会話をし、安心して眠れる環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個別に保管しており、薬についての把握や確認が出来るよう、薬情シートもファイルしている。2重確認することで、誤薬の防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化し食がおちてきている方には、ご家族へ連絡し、本人が昔好んで食べていた食べ物なども聞き、速やかに提供出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い、出来ていない状況。イベントの日には、職員の人員をいつもより多くもつけ、花見見物のドライブや焼き肉を行えるように支援している。	利用者の重度化により近隣の散歩は困難になっている。お天気の良い日を選んで、外で食事をしたり、ドライブに行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知力の低下に伴い、小銭を管理できている方は1名のみ。敷地内の自動販売機で買物が出来るように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話を掛けることが出来る方は2名。1名の方は毎週日曜日に、家族から電話が来ている。もう1名の方は月に2回家族の方へこちらから電話を掛けさせて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節に合わせた飾りを提示している。大きな窓から見える景色で季節感を味わうことが出来る。車椅子でも完全に移動が出来るように工夫している。浴槽を深めに設置し、温泉気分を味わえるようにしている。	リビングには、大きな窓から明るい日差しが差し込み、ゆったり、のんびりした時間が流れている。温度、湿度、換気には常に気を配り、快適に過ごせるよう工夫している。安全のために、床には物を置かず、車椅子等もゆったり移動できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓テーブルやソファがあり、気の合った入居者様同士で過ごす事が出来るよう配慮している。居室以外でも一人になれたり、思い思いに過ごせる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや寝具、ぬいぐるみ等を持ち込み、居心地良く安心して過ごせるよう努めている。	利用者それぞれが、家で使っていたタンスや鏡台を持ち込み、写真やぬいぐるみ等を飾って居心地の良い空間を作り出している。各室にはトイレ、洗面台、クローゼットが設置され、清掃も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下やトイレ等に手すりを設置しており、歩行や排泄時等、安全に移動出来るように配慮している。且つ居室には、表札が掛けてあり、自分の居室だと分かるように工夫している。		